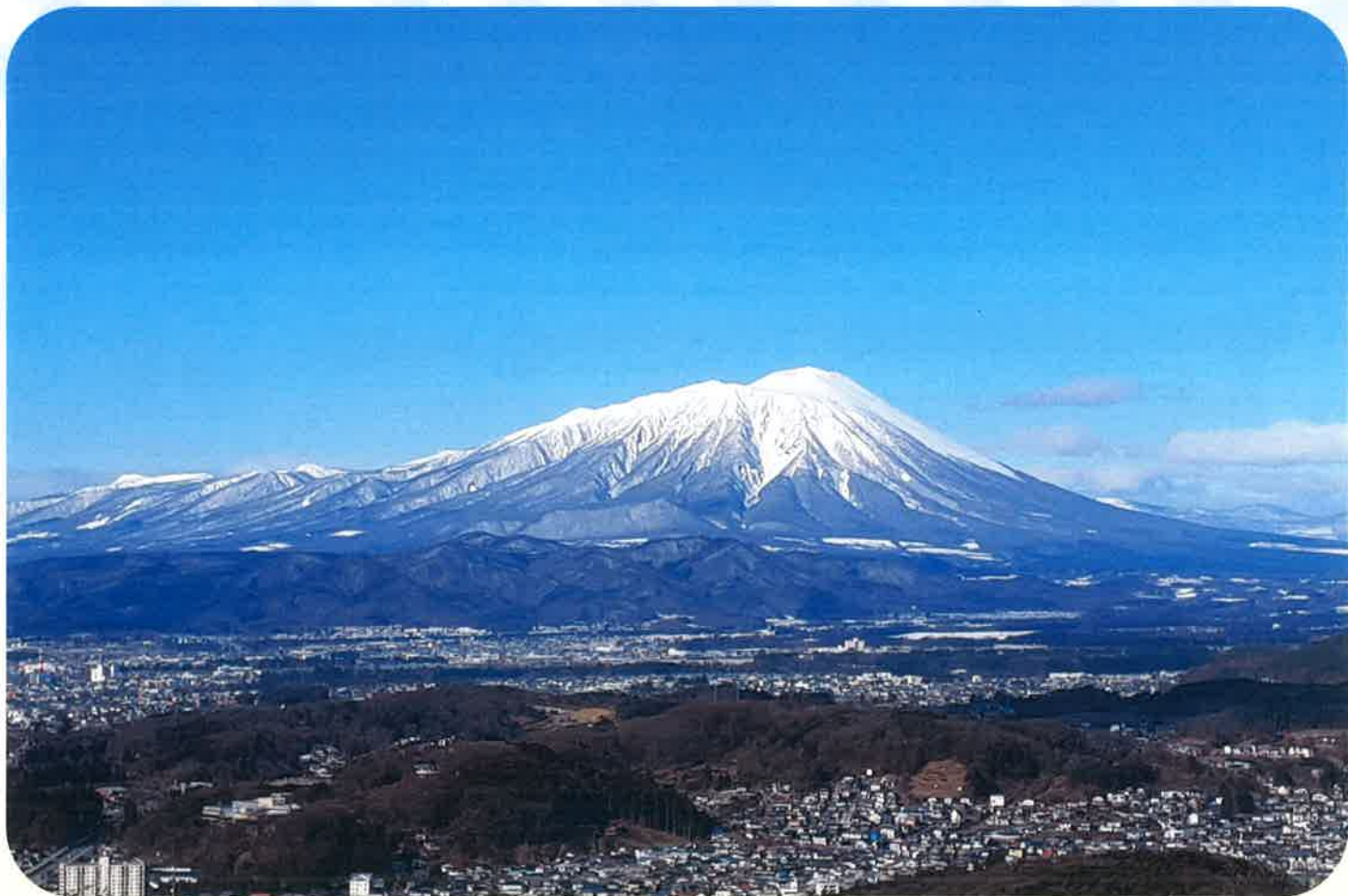


2024.1月発行

第57集

協議会だより



一般社団法人 岩手県訪問看護ステーション協議会 会長 飯嶋 純一



謹んで新年のお慶びを申し上げます。会員の皆様には、日頃より当協議会の事業推進にご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本年もより一層尽力して参りますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

まず、1月1日に発生しました令和6年能登半島地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆様の安全確保、一日一刻も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

来年度は、北海道・東北地区訪問看護連絡協議会合同研修会の開催担当となっています。岩手県の魅力を、他の道県にお伝えできるよう実行委員会を設定していきます。会員数も増え、訪問看護の必要性や地域における貢献、訪問看護師の知識と技術の向上を目的とした研修や勉強会も今まで通りに計画・実施していきます。岩手県内ステーションが協力し合い、様々な職種の方々と一緒に学んでいければと思っております。今後もよりよい協議会活動となるよう、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

令和5年度は県内各地で看護師対象の研修と盛岡市にて一般の方・医療従事者も対象とした研修会を開催いたしました。多数の方々にご参加いただき誠にありがとうございました。

令和5年度研修会一覧		
	研修内容	日程
1	今後の在宅医療・介護を考える～訪問看護の日～	R5年7月30日(日) いわて県民情報交流センターアイーナ
2	管理者研修会 人材の育成～看護師を定着させるアクションとは～	R5年8月26日(土) いわて県民情報交流センターアイーナ
3	小児訪問看護研修会	R5年9月2日(土) いわて県民情報交流センターアイーナ
4	精神科訪問看護研修会	R5年10月14日(土) いわて県民情報交流センターアイーナ
5	沿岸ブロック研修会 患者・家族に寄り添う看取りケア	R5年11月4日(土) 陸前高田コミュニティホール
6	中央ABブロック研修会 からだと呼吸とところを調える	R5年11月4日(土) いわて県民情報交流センターアイーナ
7	県南ABブロック研修会 訪問看護に必要な認知症対応 ABC	R5年11月19日(日) 金ヶ崎町中央生涯教育センター
8	訪問看護師人材育成伝達講習 在宅におけるポジショニング講習会+素敵な笑顔作り	R5年12月2日(土) 陸前高田市奇跡の一本松ホール

R6年度も県内各地で研修会を予定しておりますのでご参加いただければと思います。また研修会に対するご意見、ご要望などございましたらお気軽に当ステーション協議会へmailにてご連絡ください。最新の情報は随時ホームページにて公開しておりますのでご確認ください。 Eメール:iwate_kango_st0425@outlook.jp ホームページURL:https://www.houkan-iwate.com

小児訪問看護研修会

9/2、アイーナにて小児訪問看護研修会を開催しました。訪問看護師、行政関係機関の職員の方々、看護学校の方々等60名の方に参加していただきました。

若手医科大学付属病院小児プライマリケア認定看護師 大崎新太郎様に小児医療における特定行為についてや医療的ケア児サポート体制、今後の課題として訪問看護師との連携(問い合わせ窓口の確立)等のお話をして頂きました。その後、花巻市健康福祉部障がい福祉課の佐々木徹様より、花巻市の医療的ケア児等コーディネーター事業の取り組みについて紹介していただきました。「ライフステージに対応したタイムリーな支援の提供」を目指し各職種の方々も熱意をもって取り組まれており、佐々木様からのメッセージにもありました「支援体制の構築、充実への協力を部門の壁を越えた支援を考え、平等、公平、公正の再確認を行いながら少しでも前へ、できることから。この人に会えて良かったと思ってもらえるように」という言葉が心に残っています。医療的ケア児を取り巻く支援



水沢病院訪問看護ステーションきらり
菊地 浩子

については、始まったばかりで支援体制の充実を図っていかねければなりません。訪問看護師として、できることから関係機関と連携し取り組んでいかなければならないと再認識することができた研修でした。研修に関わった皆様に感謝申し上げます。



精神科訪問看護研修会

令和5年10月14日(土)いわて県民情報交流センターアイーナにて精神科訪問看護研修会が開催されました。精神疾患を持つ利用者に関わる上で疾患を理解し他者には理解されにくい内面を読み解きどのように援助していくかを学ぶことができました。

近年の生活様式の変化で、かつて3大精神病、統合失調症、双極性障害、てんかんに加え認知症や不安障害(パニック障害、社交不安障害、強迫性障害等)、神経発達症(ASD、ADHD、LD)が増加しています。また統合失調症や知的障害のみの診断を受けた方が少なくなっている傾向にあり、この背景には、パーソナリティー障害や発達障害の要素が存在し、これらの診断も受けた方が増えていることがあげられます。

研修を通して精神疾患の知識を学び利用者や家族との関わり、当事者は幻覚や妄想、気分の落ち込みなどでとても辛い体験をしているということ、ケアを通じ関わって感じた気持ち



を相手に伝えるという技術も大切だと学び、いろいろな視点から利用者に必要な看護の提供ができるよう心掛けていきたいと思います。

令和5年度訪問看護師人材育成伝達講習

「在宅におけるポジショニング講習会+素敵な笑顔づくり」

松原訪問看護ステーション 佐々木 圭子

伝達講習では、在宅医療の現状及び、在宅医療を取り巻く環境との連携の必要性和課題等学びになり、今後、顔の見える関係性づくりや、知識を深めることの大切さを再確認した機会となった。

ポジショニング講習では、実演がとても分かりやすく、すぐに現場で取り入れられる技術を学ぶ事ができ、良い学びとなった。最後に笑顔作りでは、参加者皆笑顔で終了でき、温かい雰囲気での研修会となった。



中央ABブロック研修会

「からだと呼吸とこころを調える」

令和5年11月4日(土)中央ABブロック研修会では、大梅拈華山 圓通 正法寺布教師 海野義範 氏を講師に「からだと呼吸とこころを調える」研修会が行われました。現代の日常では様々な情報が飛び交い常にストレスにさらされ脳や体が休む間もなく働いている。座禅を通し自分自身の体と心を調える方法を学びました。

お釈迦様が七日間不眠不休の座禅修行の後12月8日に悟りを開いた。「我大地友情同時成道」私とこの世のすべての存在には情けがあり思いや行動は同じく未来永劫にわたって救いとなるものであると教えていただきました。

参加者全員で座禅、目的を持たず体・呼吸・心を調える。何もしない時間を少しでも持つことにより体と心の休息に繋がりました。



県南ブロック研修会

「訪問看護に必要な認知症対応ABC」

花鰐庵訪問看護ステーション 中村 久美子

令和5年11月19日(日)金ヶ崎中央生涯センターに於いて、岩手県訪問看護ステーション協議会県南ブロック研修会が開催されました。

現地参加13名・zoom参加24名。“訪問看護に必要な認知症対応ABC”と題しまして、花鰐庵クリニック院長 阿部裕行先生にご講演頂きました。

普段、訪問看護をしていて困っていたBPSDへの対応やご家族様が悩んでいたことへの対応を阿部先生の講演を通して学びました。

研修内容が理解しやすく、現場に生かせるアドバイスを含めながらの講演でした。また、医療と介護の連携において多職種との情報を共有することで、さらに安全・安心な看護を提供できると感じました。



今後の在宅医療・介護を考える

訪問看護の日



今後の在宅医療・介護、啓発のため在宅医療介護に興味のある方、介護を受けている本人、ご家族等対象に令和5年7月30日(日)いわて県民情報交流センターアイーナにて訪問看護の日を銘打って「今後の在宅医療・介護を考える」公開講座を初開催いたしました。

午前の部は在宅医療に携わる企業にご協力頂き展示ブースを設け一般の方から実際に介護を受けている本人、ご家族、介護、看護の学生等多数の方々にご来場いただきました。来場された市民の方から「いずれ自分も歳を取ってお世話になる時が来るがどのようなサービスがあるか分からなかった。在宅でも看護、介護を受け生活ができるということが分かりました」とのお言葉をいただき市民の方々への啓発が重要であると再認識した次第です。

午後の部の公開講座では小坂内科消化器科クリニック院長、小坂崇先生より「今後の在宅医療について訪問看護の重要性」として実際の在宅医療の現状や訪問看護の役割をご講演いただきました。また、在宅での生活を支える支援者として、介護支援専門員、訪問看護、訪問リハビリ、薬剤師、訪問介護員という個々の専門職からの視点での発表を聞き、チームとして在宅医療を支えていく重要性を改めて認識しました。特に介護支援専門員からは訪問看護の活用のタイミングに関し医療処置が必要な方はもちろん、健康を維持し病気の悪化を予防するための訪問看護の活用が高齢化社会では重要となるのではないかと発表いただきました。

今回会場参加65名、Web参加22名、計87名の方々にご参加いただきました。誠にありがとうございます。このような会を県内各地で継続開催できるよう当協議会として取り組んでいきたいと思っております。ご協力頂いた皆様、企業様に心より感謝申し上げます。



【展示・出展企業】



- 東洋羽毛北部販売株式会社
- フォレスト福祉用具サービス㈱
- (株)クリニコ
- (株)大塚製薬工場
- 多機能型事業所ちやちやまる
- ラッキーバック株式会社



訪問看護ステーション ベル



管理者 長根 雅

はじめまして。訪問看護ステーションベル、管理者をさせていただきます。よろしくお願いします。長根雅です。

盛岡市本宮に2022年12月から事業を開始し1年が経ちました。

当ステーションでは看護師がお宅に訪問して、健康状態の悪化予防や、回復にむけてのお手伝いをしております。必要に応じ他事業所と協同し、ご利用者様、ご家族様にリハビリや医療処置、介護技術の指導、福祉用具の選定などの相談や提供をしております。

当ステーションは「その人が自分らしく生きる」をモットーに「病気だからしたいことができない」ではなく「病気だけどしたいことを、どうすればできるか」をスタッフ一人ひとりが考え行動をする。そんな事業所となっております。

訪問看護と訪問介護を併設している事業がすくなく、一人の利用者に対して複数の事業所が介入しているケースが多い中、当法人では介護事業所も併設しており一つの事業所で一人の利用者様を支援することができるため、情報共有が容易に可能で質の高いサービスを提供できる体制となっております。

ご利用者様とご家族様の希望や想いに寄り添った支援ができるようサポートしておりますので何でもご相談ください。

訪問看護ステーション 南昌



管理者 武田 美知子

はじめまして、訪問看護ステーション南昌と申します。令和5年4月1日、医療法人社団帰厚堂 南昌病院に併設されました。

病院理念「愛と誠の精神」のもと、「地域の関係機関と協働し、安寧で自立した生活を支援します」をステーション理念として、1件1件の訪問を大切にしております。

利用者様やそのご家族に寄り添いながら、安心して療養生活を過ごせますように、そして、地域包括ケアシステム構築のためにも必要とされる存在となれるよう、試行錯誤を重ねていきたいと考えております。

知識、実績も少ないステーションですので訪問看護ステーション協議会に加入させて頂き、皆様と繋がりが持てましたことは、大変心強い事だと思っております。

今後とも、皆様からのご指導ご鞭撻の程、宜しく願い致します。

ひたちの会虹色 訪問看護ステーション



管理者 朝田 篤子

令和5年6月に奥州市前沢に開設した、ひたちの会虹色訪問看護ステーションでございます。

私の出身地である奥州市前沢に医療的サービスを通して貢献し、感謝を伝えたいと思い開設させていただきました。

起業のきっかけは、介護保険法の施行前に看護学校での実習を通して在宅での訪問看護の必要性を感じつつ育児

と仕事に追われる日々を送っていましたが、外來の仕事しながら、医療機関を受診する方の本当の問題点について疑問を持ち始め、来院する本人と家族の関係性について垣間見られる会話の中から、病院に来て内服する薬よりも在宅での生活の中から問題点を探し日常生活などの支援の方が患者様には必要なのではないかと強く感じるようになり、働きながら介護支援専門員の資格を取得いたしました。

その後、15年お世話になったクリニックを辞めて、訪問看護の世界へとびこみました。

訪問看護ステーションや訪問医療での経験をつむなか、父親が肺癌末期と診断され、前沢の自宅で看取りたいという気持ちが増大し、それまで住んでいた埼玉を離れ、奥州市前沢での訪問看護ステーションの立ち上げを決意いたしました。

起業は自身が考えていたよりも難しく、わからないことだらけで、日々勉強になる事ばかりでしたが、地域の介護支援専門員様、他の訪問看護ステーションの管理者様、医療機関の看護師様、地域連携室の方々のご協力を得ながら何とかここまでたどり着くことができております。

これからも、当ステーションのスタッフ一同、学びと努力を惜しまず、ご利用者様のあたりまえの生活ができ、ご利用者様やご家族様の笑顔を作り出せる様に楽しんでお手伝いをさせて頂いたらと考えております。

ソルド 訪問看護ステーション



管理者 佐藤 舞

盛岡城跡公園のすぐ側に株式会社ソルドがございます。ソルドは福祉事業部(就労移行支援・放課後等デイサービス)とアロマ事業部(サロン・スクール)として、地域社会と共鳴する社会資源になることを経営理念としスタッフ一同精進して参りました。そして10年目となる2023年9月に医療分野の訪問看護を開設いたしました。

【福祉×医療×自然療法(補完・代替療法)=その人らしさ、人間らしさ】

精神科訪問看護と小児科(医療的ケア児)訪問看護に特化した訪問看護として、それぞれの分野のプロが生きる希望と勇気を届けに参ります。その人らしい自分らしい生き方を一緒に模索し、心のよりどころをご提供いたします。【ソルド】とはフランス語で「バランス」という意味があります。こころとからだはつながっている、こころとからだのバランスをととのえること、生きる事そのものが愉しくなる、という連鎖を広げていきたいと思っております。

訪問看護のご相談はもちろんですが、リラックスしたい方、アロマの香りを体験してみたい方等、お気軽にアロマサロン併設の当ステーションにお気軽にお立ちください。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

清和会訪問看護ステーション ひまわり



管理者 千田 政利

はじめまして。清和会訪問看護ステーションひまわり(以下「ひまわり」)と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

「ひまわり」は、2023(令和5)年4月14日に奥州市水沢に開所したばかりのステーションで、

経営母体は医療法人清和会です。

対象地域は、奥州市全域と隣接の金ケ崎町を訪問範囲としています。奥州市は範囲が東西に広く、西には奥羽山脈、東には北上山地が迫る地域にあります。でも、私たちの基本姿勢として、「どこでもお伺いします」とお問い合わせ、訪問をお受けしています。

職員は、私を含め看護師4名、事務員1名の計5名体制で始動しました。実は、清和会には十数年前にも訪問看護ステーションが同じ名前が存在していました。しかし、諸般の事情により廃止となりましたが、時代のニーズに沿うべく、今年「復活」を果たしました。

ほぼスタッフ全員が「訪問看護初心者」の状態からスタートしたので、最初はどこから手を付けたらよいかわからず、現在も様々なステーションの皆さんに助けて頂きながら、何とか頑張っています。

そして、ステーション名の「ひまわり」については、「ひまわり」のように、皆様に愛され続けるステーションでありたいという想い、そして常に太陽の方を向いて生きているひまわりのように、私達スタッフも、ご利用者様やご家族様に向き合い、一緒に安楽な在宅生活のサポートをさせて頂きたい、との想いでこの名称を付けました。今後もスタッフが地域の皆さんの「ひまわり」となっていけるように頑張っていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

MER 訪問看護ステーション



管理者 三上 亜矢

はじめまして、2023年7月に久慈市中の橋で開設いたしましたMER訪問看護ステーションです。フランス語で「海沿いの街」という意味を持つMERですが、開設以来その名の通りの久慈地域で毎日忙しく訪問に伺わせていただいております。

看護師3名、事務員1名という最少人数でのスタートですが、それぞれ20年以上の病院勤務経験があり、看護技術、倫理観念は個々が自信を持って提供できております。誰しも大切にしてきた環境、人、地域への思いがある。病や障がい、介護を抱えていても、その人がその人らしく、「いきいき生きる」ことをモットーに、地域の関係者様、ご家族、ご利用者様に支えられながら活動させていただいております。また、長年病院内で温度調整完備、窓の外も見ることもなく気付けば夜、といった生活をしてきた私達。広大な久慈広域地区の自然、季節感を楽しみながら充実した看護師人生を送っております。MER訪問看護ステーションインスタグラムにその様子を適宜アップしておりますのでどうぞご覧ください！



震災を振り返り防災を考える

岩手県訪問看護ステーション協議会防災担当
訪問看護ステーションほほえみ 坂下 英治

訪問看護ステーション協議会の皆様をはじめ、関係各位の皆様、新年あけましておめでとうございます。誰もが、楽しくお正月を迎えていたその時でした。地震速報による大津波警報、羽田空港にて旅客機衝突事故など、突然の悲報に私は13年前の東日本大震災の記憶が蘇って来ました。

石川県最大震度7を観測した能登半島地震は、8日で発生から1週間、死者は7日午後時点で128人、安否不明者は195人にも及びました。誰もが目を覆いたくなる災害事故になっております。輪島市をはじめ珠洲市など4市町村の孤立集落に2300人が残っていると明らかになりました。東日本大震災で起こった状況が、また、再び蘇えた感じで心が痛みます。助けを呼ぶ人、待つ人、悲しみにくれる人、様々な状況が映し出されております。

避難所における感染症の兆し、支援物資の停滞、ガソリン不足と東日本大震災で経験した事が現実には起こっています。私の経験から最も重要な事は、各被災地迄のルート確保が最も大事です。以前、陸前高田市の津波伝承館で放映された映像を見て、国土交通大臣と仙台国土交通省局長が国会とつながり、現場の緊迫した状況を説明している中で、被災地迄のルートの確保を自衛隊に要請している場面が映しだされておりました。国土大臣からの返事は、自衛隊の主たる任務は、国民を安全に救う事が第一で、がれき撤去はその次に実施する事と、マニュアルに記載しているとの回答でした。仙台国土局長がマニュアルの問題でなく、実際に今、何が重要課題なのかを、しきりに声を上げて訴えている場面が映し出されておりました。

度重なる押し問答の結果、岩手県と宮城県沿岸へ続く10本以上の主要道路の確保が出来、支援物資、重機、ガソリン、人員等の支援が出来ようになり、復旧に向けての取り組みが出来ようになりました。私の住んでいる宮古市も、津波によりライフラインや主要道路が寸断され、移動は徒歩による移動が主でした。自衛隊による主要道路の確保が、支援の第一歩になりました。

地震や自然災害はいつ起こるか誰にも分かりません、普段からの備えが最も重要になります。毎年、防災の日に啓発活動の一環としてポスター等で呼びかけています。今一度再確認をして頂ければ幸いと存じます。東日本大震災で多くの方々の支援を頂きました。今度は被災県である私たちが、少しでもお役に立てることを考えて、今後の支援活動に取り組んで参りたいと思います。

今年は例年がない厳しい年になるかと思われます。皆様のご多幸を心よりお願い申し上げます。



新しく建設中、宮古市閉伊川水門



旧宮古市役所跡地うみどり公園

編集後記

2023年の日本の平均気温は1898年の統計開始以来歴代最高、過去にない高さとなったようです。

今年の冬は雪が少なく雨が降ったりと暖かく訪問車での移動も楽になっている半面、地球温暖化が心配でなりません。気候変動の急速な変化を食い止めるために、自分自身、身の回りの出来ることから取り組んでいきたいと思ひます。明るい未来のために。



第57集 協議会だより 1月号

一般社団法人
発行所：岩手県訪問看護ステーション協議会
訪問看護ステーションはなえみ内

〒020-0834 盛岡市永井23地割22番地1
TEL:019-613-7011 FAX:019-613-7018
E-mail: iwate_kango_st0425@outlook.jp
URL: <https://www.houkan-iwate.com>

発行人(広報): 上澤 真樹(訪問看護ステーションらら)